

脫復脫一切形已言勝歟輸提比丘者波陁觀身
自齊而已此比丘既自達意復能廣說觀身無盡
之法訓寤一切令同已美以是因緣故稱頭難豎觀身
我弟子中軍後取證得漏盡通形謂須改者佛
告諸比丘我軍小兒者是誰謂須改也形已稱其
軍後得證第一者佛已入无為境便當取深樂形
以復九十日留者正欲為此小兒也或曰若為小兒留者
小兒之比大多何以知其然將來於勒成佛時一會度
九十六億人將至雞頭洙山時大迦葉執佛大衣在此

「落ち穂拾い記」⑤0

敦煌写経 ③

図版②同時代の写経比較（大谷探検隊将来写経より）



図版①毎日新聞の報道

1997年(平成9年) 7月4日 金曜日 (日曜)

大英博物館

京大名鑑
教授ら紙と筆遣い鑑定

敦煌写本 多くが偽物

MAINICHI

新毎日

夕刊

毎日新聞大坂本社

森下仁丹株式会社

NEWSLINE

ワイド・ナウ

2、3面見聞き

スポーツ 競馬で関心 近大・清水投手
マインド 宝塚記念 特選決まる
松方弘樹のカツドウ人生

スタイル貫いて引退 18面

男子テニスのスター、ボリス・ベッカー選手(29)がロイターで3日、内務省で引退を表明。ウィンブルドン選手権で取った後、「トップ選手であるうちに引退するのが私のスタイル」と話した。

あすの天気

兵庫県警

楷書に隷書の趣が融合したような北涼写経の書風には相当引きつけられた。日本では戦前の大正7年(1918)に『談書会誌』で、『李柏文書』を始めとする数千件の六朝写経等の残巻が紹介されている。大谷探検隊が1900年の始め頃に西域から将来した実に珍しい墨跡資料である。こうした西域出土の墨跡資料が市中に出回るとは滅多にない。2005年頃、日本の有力な古書業者ABAJ(日本古書籍商協会)が創立40周年記念「世界の古書・日本の古書」展を六本木ヒルズで開催したことがあった。新しく開発された新都心の名所であり、物珍しくて出向いた。会場の隅の方のブースで神保町の顔見知りの方を見かけた。何を出されているのかと覗いて驚いた。北涼の写経二紙分が無造作に置かれてあった。すぐに価格を尋ね、予約し購入した。この頃には、西域出土とされる墨跡資料に関して疑問視する見解が出されていた。京都大学の敦煌学および西域出土の古写本研究の第一人者・藤枝晃氏の見解である。1997年7月の毎日新聞の記事である(図版①)。「敦煌写本 多くが偽物」の大きな見出しは今でも鮮やかに覚えている。氏の論文の影響で、この種の墨跡資料は現在のように高くはなかった。当時、藤枝氏の「敦煌写本 多くが偽物」に関する著作を探し、読解するも納得できるものではなかった。現在も変わらない。今回図版に示した北涼写経残巻は、前号の断簡と比べて自由で伸びやかな筆勢を示す。全体に軽快な書きぶりであり、時には大胆な筆運びを示している。始めに触れた大谷探検隊の将来した同期の写経等(図版②)と比較しても見劣りするものではなく、実に楽しい魅力ある北涼写経残巻と認識している。

伊藤滋(書齋名・木鶏室)

書道芸術院

令和の群像 (2024)



福田 令子

「古筆との出会い」

今から半世紀以上も前の恩師との出会い、それは古筆との出会いでもあった。

下谷洋子先生のお父様、故下谷東雲先生より、漢字・かなの臨書について基礎から本当に熱心に、そして丁寧に指導いただいた。

また、古筆の真筆を鑑賞することの重要性も教えていただき、様々な真筆を機会あるごとに鑑賞してきた。

しかし、永年の間に徐々に自分の殻の中

に作品が収まってしまっていることに気付かされることがとて多くなってきた。

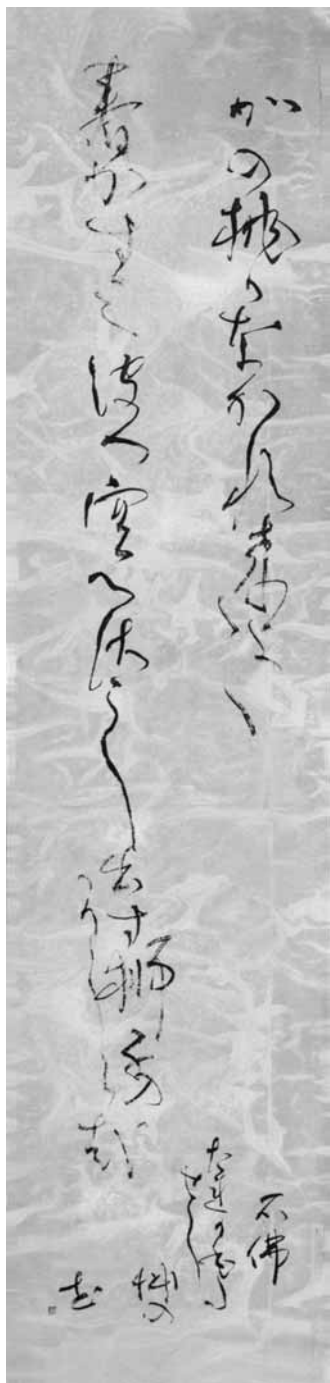
そんな時、下谷洋子先生から「守破離」の教えについてご指導いただいた。「守」は師の教えを忠実に守り、確実に身につける段階。「破」は良いと思うものを取り入れ、心技を発展させる段階。そして「離」で、独自の新しいものを生み出し、確立させていく。

このお話を伺いながら、自分の進むべき道が、少し開けてきたような気がした。それは、今まで素晴らしい古筆を鑑賞しても、自分の中で何も生かせていなかったということに、気付かされたことである。

そして今、改めて古筆を見直し、新たな学びへの挑戦を始めたかと思っている。もう一度「守」からの再出発。新たな気持ちで、色々な見方をしてみると今まで見えなかった多くのことが見えてくる。これからは「破」を目指し、先人の残してくれた貴重な財産を大切にしながら学び続けていきたい。

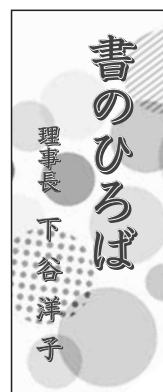
今、自身に問いかけてみると、自分にとっての「書」は、自分と向き合うことであるような気がする。「破」「離」の境地に至るには、ほど遠く、行き着くこともないかもしれない。しかし、高きを目指し続けることでまた、新しい発見があり少しずつも前へ進めるのではないかと思う。

書と出会えたことで、恩師・先輩・仲間など多くの方々との出会いが生まれ、今それは人生の宝となっている。これから先も、書に支えられていることを実感しながら、遠き道を歩み続けたいと思う。



2023年毎日書道展「かの桃が」

福田 令子 書



「書道」がユネスコ無形文化遺産 提案候補に選定

全日本書道連盟は、平成26年から「日本書道ユネスコ登録推進協議会」構成団体の一つとして活動が続けて来ましたが、保持団体の日本文化協会の支援などの協力もあり、昨年12月18日に行われた文化審議会無形文化遺産部会により、「書道」がユネスコの提案候補に選定されました。

今後は、ユネスコ事務局への提案書提出などを経て、令和8年の無形文化遺産登録まで、書道界は一丸となって保護継承活動に取り組んで盛り上げていくこととなります。

第77回書道芸術院展 審査会員・同候補作品搬入

昨年12月一般公募・無鑑査作品は未表装で鑑別審査を終了しましたが、今年に入って1月17日に審査会員・同候補の書類搬入が行われ、別掲の通り、搬入されました。候補以上の作品も一般公募・無鑑査と同様に若干減少となりました。

1月27日に東京都美術館に表装された全作品が搬入され、候補以上の作品は28・29日に特別賞選考委員（財団理事・監事）によって審査が行われました。

28日 審査会員候補選考（大賞・準大賞・白雪紅梅賞・俊英賞）

29日 審査会員選考（春華賞）併せて秋季展出品作家（推薦作家含む）、78回展大作出品者の選考も行いました。入賞者は別掲の通り。

・会期 2月6日（火）～11日（日）

・会場 東京都美術館

・表彰式 2月10日（土）15：30

・浅草橋ヒューリックホール（浅草橋）

・作品解説会

2月6日（火）14：00

2月11日（日）10：30

（速報）

第77回展春華賞 現詩 大平邑峰

同大賞 現詩 佐藤祥扇

同準大賞

（漢字）宇田川春華・小松美恵、（かな）木村閑泉、（現詩）大友汐苑、（前衛）石黒和喜

同白雪紅梅賞

（漢字）小関瑞華・徳永溪泉・服部照琴・半澤香舛、（現詩）大里香溪・長南一恵・山崎智寿、（篆刻刻字）森一径、（前衛）工藤史音・田村紅沙

同 俊英賞

（漢字）石塚紀朋・大野純奈・金延憲市・河野文・穴戸谷秀・豊田翠玉・中嶋佐緒里・林清水・本田賀卿・前田潤来・三浦英樹・宮崎春泉・宮本月琴・山崎秀水・山田明雪、（かな）田中耶衣・逸見玲子・星野栄子、（現詩）石澤青仙・小野幽景・加藤祐子・齊藤一翠・鷺山美梢・庄司櫻空・高砂淳子・高橋真弓・林智水・樋口恵泉・菱沼範子・藤井花香・藤野洋子・舟實恵美・松浦麗水・目黒里実、（前衛）相川治舟・遠藤和香・川田弘子・佐々木秀華・佐藤陽子・鈴木恵風・田中澄花・蛭川友香里・本田美雪・松倉幸子

同春華賞、同候補（A赤シールで表示 秋季展選拔作家）

（漢字）阿潟浜翠燕・朝倉希代子・



審査風景

第77回書道芸術院展搬入状況

部門	審査候補	前回展	審査役員	前回展
漢字部	211	218	172	170
かな部	41	39	52	49
現代詩文書部	211	214	163	166
篆刻・刻字部	11	14	17	18
前衛書部	129	133	116	112
合計	603	618	520	515
増減	-15		5	

※次回展「大作」出品者（3名）

（漢字）大内榮軒、（現詩）大平邑峰（前衛）宮崎芳玉

板橋雅邦・市川将義・上田琴秀・小

山内谷玲・柄山明珠・衣田翠草・清

遠瑞・小竹正高・佐伯哲哉・西川藤

象・引田恵華・本郷谷恵・山岡扶佐・

渡辺柱雲（かな）京絹子・熊谷翔・

佐藤希雲・都丸みどり・橋本紅霞・

羽田招佳、（現詩）氏家久光・大隅

晃弘・大友四峰・片岡豪峰・菊池富

美子・栗原由紀・坂本龍水・佐々木

一峰・佐藤初香・白石和楓・鈴木英

晴・鈴元博真・武山櫻子・横田汀華、

（篆刻刻字）加藤鶴流・津村紫幸、

（前衛）阿部邑里・安藤楊風・梅山

久子・坂田翠江・須藤彰仁・高原梨

秀・千葉華紅・千葉紅雪・原島春汀

※次回展「大作」出品者（3名）

（漢字）大内榮軒、（現詩）大平邑峰

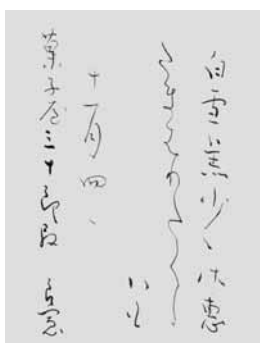
（前衛）宮崎芳玉

現代詩文書基礎基本講座 (45)

小竹石雲

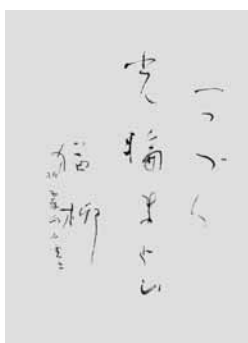
◆ 良寛
りようかん

① 拡大臨書



「白雪燕少々御恵多末者利多く候
以上十一月四日 菓子屋三十郎
殿 良寛」

② 良寛風の現代詩文書



「二つつ光輪まとい猫柳」

伊藤柏翠句

- 良寛（1758～1831）江戸時代の禅僧。幼名栄蔵。越後の人。18歳で出家、備中玉島の円通寺に大忍国仙和尚の弟子として修行。33歳のとき印可を付与された。その後諸国を行脚し、38歳ごろ帰郷の後は奇行に富んだ飄逸の生活を送ったことは有名。
- ▽特徴
懷素の自叙帖、小野道風の秋萩帖などを基盤とした書風は、超俗清純で境地が高い。
- ▽臨書にあたって
- ・この書状は乳児を抱えた母親のために良寛が懇願したもので、優しさ、温もりを強く感じる。行間の澄みきった風通しのよさを捉えたかった。
 - ・書技のみを追っても歯がたたないことは承知の上だが、筆線の妙に心惹かれ、心落ち着けては書けたが……。
- ▽良寛風の現代詩文書
- ・銀白色の毛で覆われた猫柳の花穂が春の光線の具合で光り輝く様子に何か神々しさを感じ筆を執ってみた。
 - ・文字の中の白を多くとり、その白が輝くように筆線には生彩感をもたせるべく強い線を意識した。ことさらにすると俗っぽくなる。良寛の境地まではほど遠いが一度挑戦してみたかった。

基礎基本講座

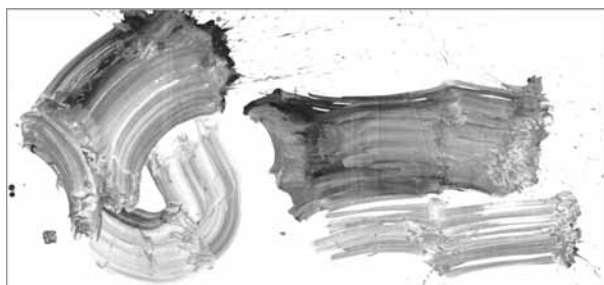
前衛書基礎基本講座 (21)

千葉蒼玄

前衛書は、伝統的な古典の作品から出発し、新しい表現方法を模索する芸術の形態である。その中で、浜谷芳仙先生は豪放で磊落なスタイルで知られているが、特に「造像記」という造形用筆からインスピレーションを受け、方筆を駆使して独自の作品を生み出した。

文字造形そのものを大幅に変更することなく、線の引き方や筆致の技巧を駆使して、立体感のある情熱的な線質により、文字が持つ豊かな美しさと、深い意味を保ちながら、新たな次元に昇華させている。

このような前衛書のアプローチは、伝統と革新を融合させ、文字表現の新たな可能性を切り拓くもので、文字の力を最大限に引き出し、視覚的、感情的な魅力を堪能させた作例といえる。



仁



現代の書 新春展

今いきづく墨の華

セイコーハウス銀座ホール展 2024年1月4日(木)～9日(火)

セントラル会場 100人展 2024年1月4日(木)～9日(火)

主催・毎日新聞社・(一財)毎日書道会

〈セイコーハウス銀座ホール展〉



「いのちを萌やす」江田浩司『狐影』

60×169cm

下谷 洋子

千支文字



黒土にうす光りさす雨後の朝
いのちを萌やすいく万の暈
春の虹ながるる雲の
すけて見ゆひとひらの光
ひきこまれたり

く(九)ろ(路)つ(都)ち(遅)に(二)
薄ひ(飛)か(可)りさ(佐)
す(須)雨後の朝
いの(能)ち(地)を
萌やす
い(以)く(久)萬の(農)か(可)
さ(沙)
2首目は略

小竹石雲



「風起こす」北嶋虚石

70×171cm

干支文字



干支文字



「冬の星座」堀内敬三

36×138cm×2

辻元大雲

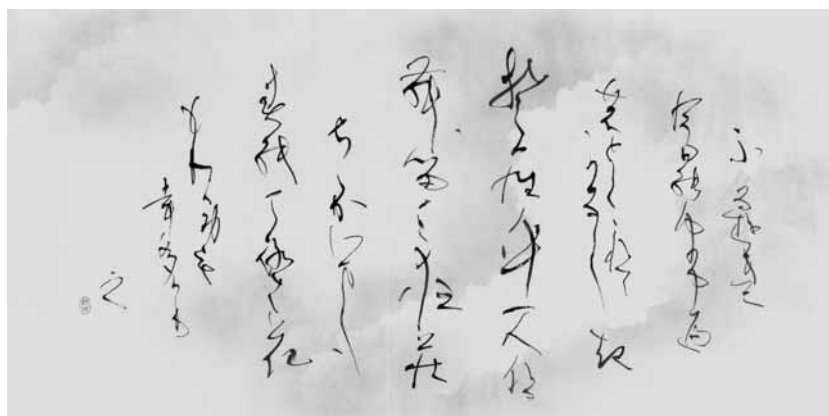
〈セントラル会場100人展〉

(50音順)

千支文字



九條純代



「ふる雪に」九條武子

60×120cm

千支文字



「薫」



小林琴水

123×91cm

「白樂天詩問劉十九」白居易



種谷萬城

138×62cm

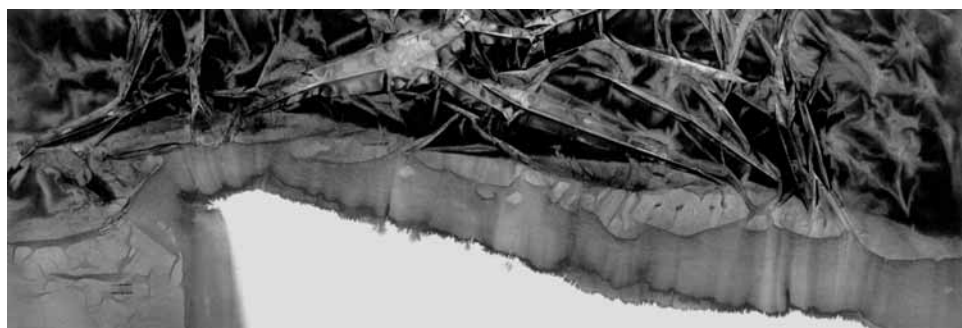
干支文字



干支文字



千葉紅雪



「い・の・り」

60×180cm

「伊勢の海」『続拾遺和歌集』行意



田子白嶺

干支文字



136×60cm

干支文字



畑中弄石



「オリオン星座」依田明倫

88×118cm

干支文字



干支文字



「春宵」蘇軾「春夜」一節



半田藤扇

167×57cm



「旦—Yoake—」

105×105cm

真下京子

蜀素帖 (宋・米芾) ②

〈解説〉 今月も前号の続きで、詩の4行目から6行目までを掲出した。「集古字」と他人から嘲けられても、日々、古典の臨書に明け暮れた米芾は、手中にしたテクニクをごく自然にこの作品の中で表出している。絹地の感触を楽しむかのように筆は自由に開閉し、軽快に動いてゆく。筆の入れ方にも工夫と変化があり、適切な箇所で蔵鋒が用いられる。特に1行目6字目の「不」字での穂先の動きは見事である。

さて、前号の「牽」字の書き順が難しかったようなので、下に示しておきます。ご確認を。

(編集部)



※落款を必ず入れる。署名、もしくは〇〇臨(押印のみ可)

漢字研究部臨書課題

Ⅱ (半紙普通判・縦使用) 左記掲載部分より何文字臨書してもよい。

特別研究部臨書課題

Ⅱ (A:大作の部 毎日筆会・会費サイズ以内、2×尺・金紙可) 当該古典の左記掲載部分以外も可。
(B:小品の部 半切以上半切以内・金紙以内可) (A・B縦書用)

詩旌雲錦殷不羞不
自立舒光射丸柏見
吐子效鶴疑縮頸還

旖旎雲錦殷。不羞不／自立。舒光射丸々。柏見／吐子效。鶴疑縮頸還。

(台北故宮博物院藏)

(掲載図版原寸)

古筆鑑賞

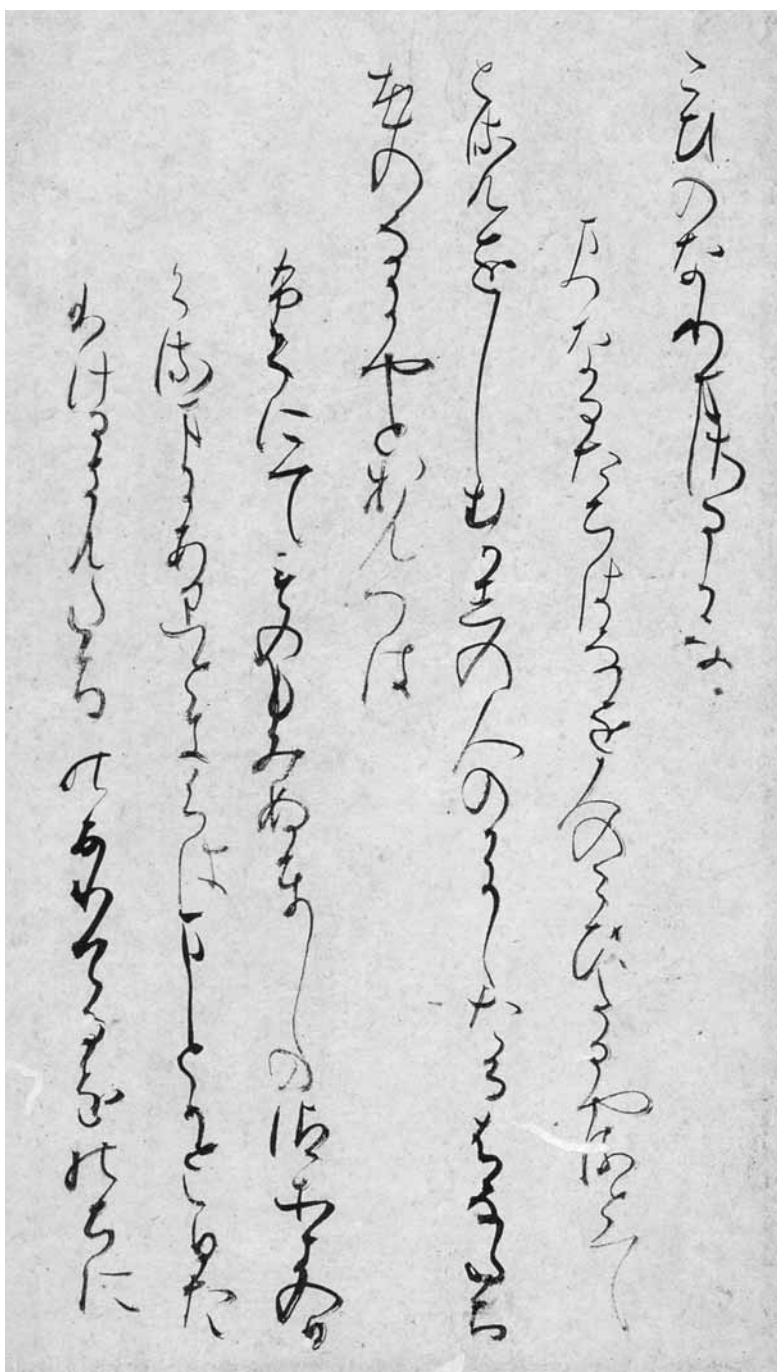
239

和泉式部統集切
(伝 藤原行成筆)

②

〈解説〉

今月も「統集切」の第一種(甲類、上巻切とも)である。墨継ぎは巧みで、渴筆を効果的に交じえながら、細かい筆線をリズムミカルに連続させている。線を目でたどってゆくといつの間にか紙に引き込まれ爽快な感じがしてくるのが不思議である。原本を縮小していくと針切に似てくるが、強さと迫力の点で異質である。臨書する際は、字の横への広がりにも留意したい。(1行目は前の歌の末尾ですが、ここから書いて下さい)(編集部)



(個人蔵)

※掲載図版・90%に縮小

(P57に見やすい図版があります)

※落款を必ず入れる。署名、もしくは〇〇臨(押印のみも可)

かな研究部臨書課題

(半紙普通判(料紙可)・縦長に使用)別紙を裁断して貼付も可。半懐紙は半紙サイズに切って使用のこと。上記の古筆の掲載部分より歌一首以上を書く。(全臨も可)

特別研究部臨書課題

A. 大作の部=毎日展審査会員・会員サイズ以内、2×6尺・全紙も可
B. 小品の部=半切 $\frac{1}{2}$ 以上、半切以内(縦横自由)、全紙 $\frac{1}{2}$ 以内も可
〈いずれも上記の掲載以外も可。〉

へよみ こひのなりまさるかな／まへなるたはなを人のこひたるやると／とるもをしむかしの人のかにゝたるはなたち／花のな
やとおもへば／ぶくにてもものもみぬとしの御そぎの日／くるまにありときくはまことかとゝひた／りけるさんだちのありける
をのちに

※古筆は原寸(以上も可)で臨書しよう。

漢字規定 初段以上 【3月15日締めきり】 用紙 半紙普通判

小浜大明 選書

春逐鳥聲

開
大明書

春逐鳥聲開

よみ (春は鳥声を逐って開く)

書体＝自由

習い方解説 (5)

小浜 大明

春逐鳥聲開 (唐太宗)

(春は鳥声を逐って開く)

春は鳥の啼き声にともなって訪れる。

先月は行草作品でしたが、その起源である篆書にも精通していないとはいけないと考え、今月は篆書の作品としました。篆書の用筆は隸書と同じ「逆入平出」です。字形は横長の隸書とは異なり縦長です。積極的に学んでみて下さい。

〈訂正〉

前号の参考例の5字目「深」は「涼」に訂正致します。ご確認願います。

天清曉
露涼
大明書

漢字規定 秀級以下 【3月15日締めきり】 用紙 半紙普通判

西川翠嵐選書

習い方解説 (5)

西川 翠嵐

偃武修文

(偃武修文)

(書経「武成」)

戦いをやめ、平穏な世を築くこと。

偃武修文

翠嵐書

偃武修文

よみ (偃武修文)

書体Ⅱ楷書

今回は「六朝楷書」を代表する龍門造像記を念頭に筆をとりました。篤く仏教を信仰し石窟に佛像を造り祈りやその由来を「方筆」と呼ばれる角ばった雄渾な筆致で刻んでいます。学生展で人気の魏靈藏、唯一の陽刻で重厚な始平公、整った美しさを見せる孫秋生などが有名です。私は素朴で愛嬌のある鄭長猷が好きでよく作品にしました。まずは、お気に入りを見つけて何枚か臨書してから課題に向かうことをお勧めします。鋭角的な三角形の線、右上がりの力強い結体、構成が特徴です。荒削りながら点画をゆずり合って見事な緊張感が伝わってきます。

なお、歴史的時代区分における「六朝」とは本来南朝のことを指しますが、書を含む芸術の分野ではこの時代を「六朝時代」と呼ぶことが多いため、北朝で発達した書体ですがこのように呼んでいます。

かな規定 初段以上 【3月15日締めきり】 用紙 半紙普通判（料紙可）

石井明子選書

習い方解説 (2)

石井明子

春の山焼いたあとから笑ひけり

（正岡子規）

山焼きとは、草木の新芽の成長を促す目的で行われましたが、近年では、観光行事として行われることが多くなっています。

俳句は短歌と字数が異なるだけでなく表現する内容が異質です。俳味とは俳諧的な趣。洒脱、飄逸で庶民的な味わい、とされます。

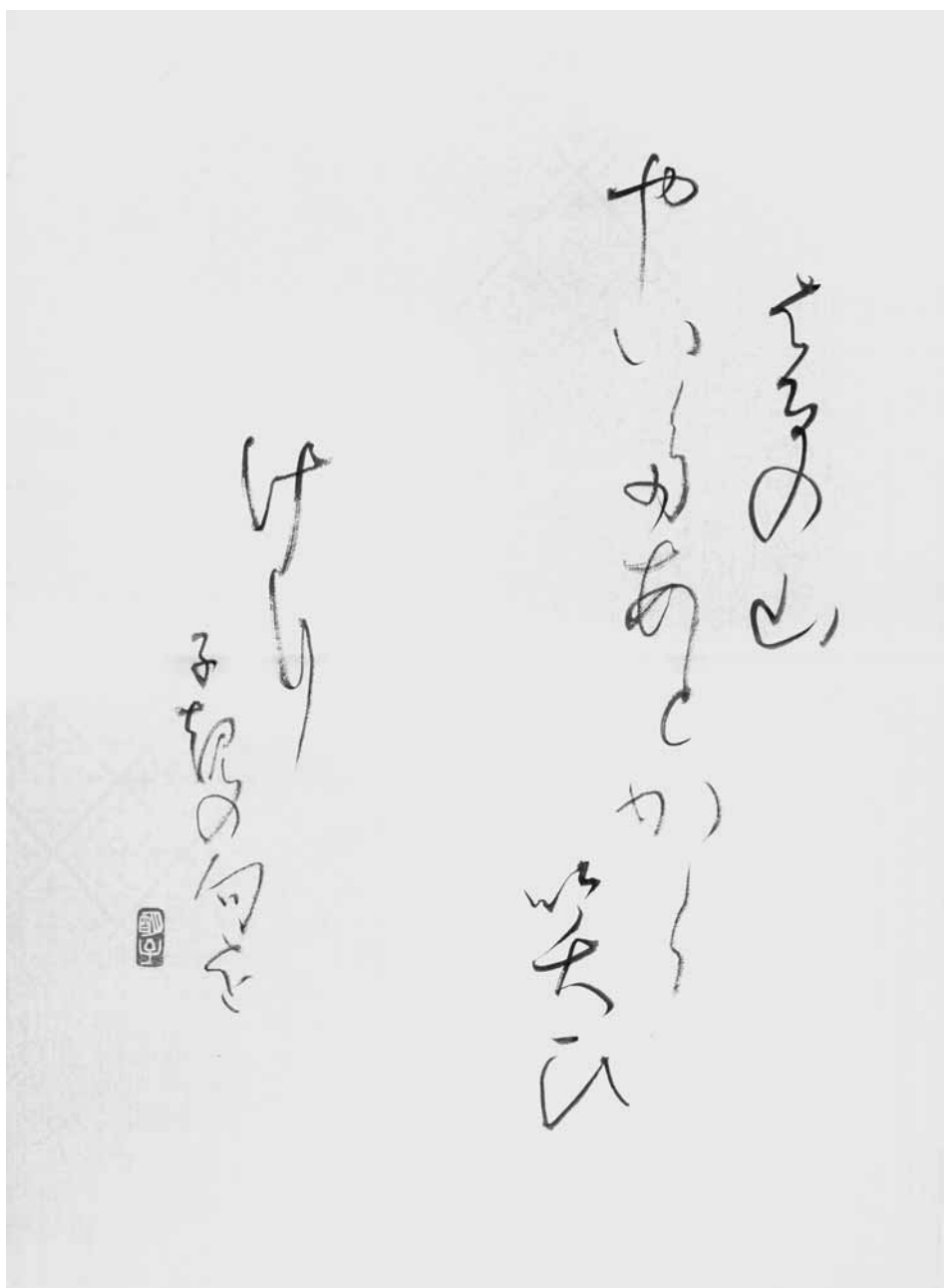
今回は、変体がなの使用を少なくし、読みやすい作品にしました。書は絵画を見るように鑑賞して、読めなくてもよいという考えもあります。しかし、字が書いてあれば読みたいと思うほうが自然な気持ちだと思います。

参考手本にこだわらず、自分が感じたままを卒直に書いてみることをお勧めします。創作です。「山笑う」が春、「山眠る」は冬。

よみ方 春（者る）の山焼（や）いた（多）あとから笑ひけり 子規の句を

創作

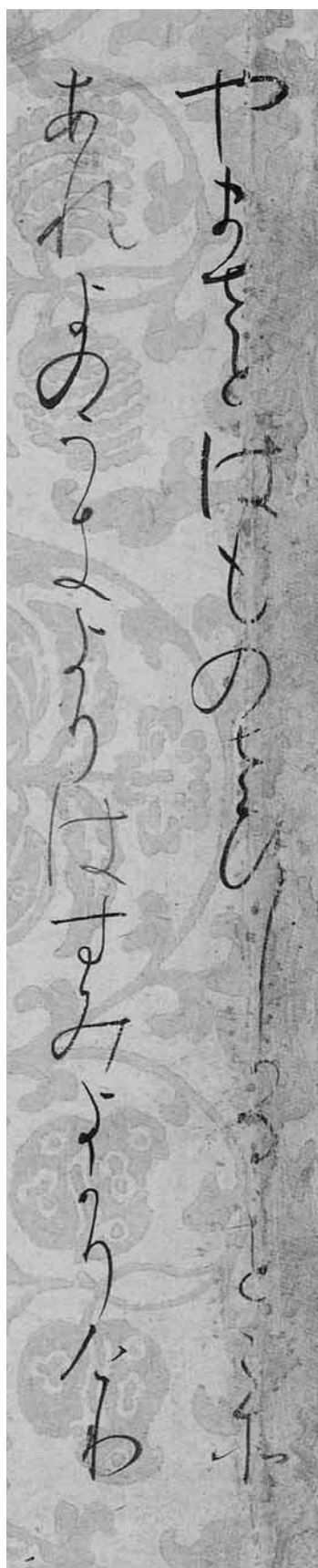
* 料紙は半紙版（33.0×24.5㎝）を使用しましょう。半懷紙は上記のサイズに切ってください。



かな規定 秀級以下 【3月15日締めきり】 用紙 半紙タテ1/2 (料紙可) (たて32センチ・よこ12センチ)
掲載写真の和歌を臨書する。部分臨書も可。〈注〉署名は「〇〇臨」。粘葉本和漢朗詠集(掲載写真拡大120%)

骨書き

ふいふいふい



よみ方 やまざとはものさびし^可かることこそ^所
あれよのうき^タよりはすみよ^可かりけり^利

歌意

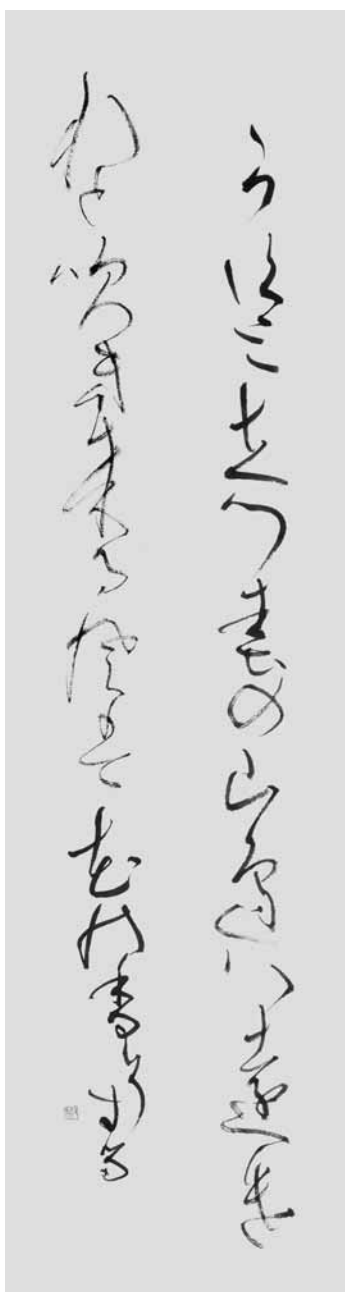
山里の生活は確かにものさびしいものではあるが、俗世間のわずらわしさやつらさを思えば、ずっと住みやすいことだなあ。

習い方解説 (2)

勝山初美

かな条幅規定 【3月15日締めきり】 用紙 小画仙紙半切 (料紙可)

勝山初美選書



よみ方

霞(可須三)立つ(川)春の山辺(邊)は(八)遠け(遣)
れど吹き(幾)来る風は(盤)花の(能)香ぞ(曾)する(留)

創作

※タテ形式に限る

かすみ^た立つ^{はる}春の山^{やま}辺^べは遠^{とほ}けれど
ふ^き吹^き来る^{はな}風^{はな}は花^{はな}の香^かぞする

(在原元方「古今和歌集」)

春の山はまだ遠いけれど吹いて来る風は花の香りを伝える。歌意のような、のどかな春の様子をイメージして書きました。

今回は漢字を多く使用したので、漢字と変体がなの調和が大切です。自然の流れが出せるよう、連綿や気脈に注意しましょう。隣り合った行の墨量の対比によっても景色が生まれます。2行目の渴筆や墨継ぎ「花」の墨量にも留意して下さい。

漢字条幅規定 初段以上 【3月15日締めきり】 用紙 小画仙紙半切

名越蒼竹選書



山上有山歸不得 湘江暮雨鷓鴣飛
(山上に山有り帰ることを得ず、湘江の暮雨鷓鴣飛ぶ。)

書体＝自由

漢字条幅規定 秀級以下 【3月15日締めきり】 用紙 小画仙紙半切

飯沼恵鳳選書



用實則人不爭 崇讓則人不爭
(実を用うれば則ち人偽らず、譲りを崇むれば則ち人争わず)

書体＝自由

習い方解説 (5)

名越蒼竹

清朝末の呉昌碩は篆刻の印刀を筆に持ち替えたスタイルで、篆書だけでなく行草書も書きました。印刀の歯を自らに向けて彫る形です。縦画が逆筆で書かれるため、傾向としては横画が太く、縦画が細くなります。しかも左下方の線の時に力が入ることによって強弱の心地良いリズムが生まれるため、昭和期に流行った書風です。

習い方解説 (5)

飯沼恵鳳

今月から漢字2行を行書（一部簡単な草書）で書いてみました。今月は「実を用うれば則ち（即ち）人偽わず、譲を崇むれば則ち（即ち）人争わず。」です。現在の世界情勢に必要な言葉だと痛感し取り上げてみました。羊毛の柔らかい筆を使用し、濃墨で書いてみました。羊毛独特の重厚な線と、軽快な連綿の線を組み合わせ、細太と潤渾の変化を心掛けて書いてみましょう。

どこかで雲雀が啼いてゐる
 どこかで芽の出る音がする
 山の三月 東風吹いて
 どこかで「春」が生まれてる
 どこかで「春が」より 紅瑤書

◇用紙 ハガキ大(14.8×10cm)の白紙を使用
 ◇黒インクのペンを使用(ボールペン・フェルトペン可)

【注意】

用紙の大きさにばらつきが見られます。
 用紙サイズ(ハガキ大14.8×10cm)を守ってください。

書体＝自由

どこかで雲雀^{ひばり}が啼いてゐる
 どこかで芽の出る音がする
 山の三月 東風^{こち}吹いて
 どこかで「春」が生まれてる
 「どこかで春が」より ○○書

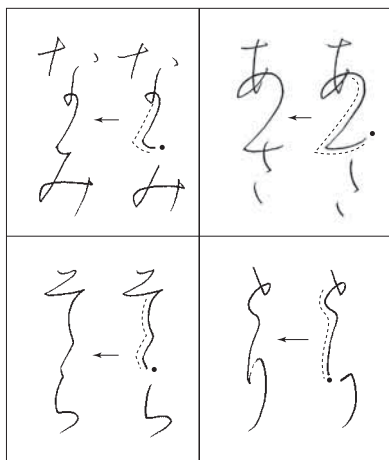
習い方解説 (5)

倉林紅瑤

童謡「どこかで春が」は百田宗治^{ももたむねぢ}作詞、草川信作^{くさかわしんさく}作曲により、大正12年(1923)、雑誌『小学男生』に発表されました。「東風」は古語で春風のこと。春を待ちわびる気持ちが歌われています。

◇「平がな」の基本―連綿③―

平がなを自然になめらかにつなげるために、「休みどころ」の要領を習得することも大切なポイントです。2字連綿の場合、1文字目から2文字目の最初の部分まで続けて止める(・で休む)のが一般的です。2文字目の最初の部分までが1文字目のリズムの領域と考えるのです。そこが「休みどころ」です。これを正しく理解することによって連綿における平がな特有の美しく軽やかな流動感が生まれます。



観梅会のご案内

日時 二月六日(金)三時

場所 第一公園 正門集合

お茶券を受け取ってから、梅園にお入りください。退園後は自由解散となります。

担当 片岡豪峰

観梅会のご案内／日時 二月六日(金)三時／場所 第一公園正門集合／お茶券を受け取ってから、梅園にお入りください。退園後は自由解散となります。／担当 氏名

書体 自由

- ◇小筆・筆ペン・サインペンなどを使用 署名は各自の姓名(号)を (掲載手本85%に縮小)
◇用紙は普通版半紙横 $\frac{1}{2}$ (24.5×16.5cm) B5版コピー用紙(26.0×18.1cm)も可
◇所定の出品券を作品の右下に貼る



かな条幅部 師範 真下美佐代
過不足ない魅力を再認識させられた作品です。創りすぎないことの表現は長年の努力の賜です。

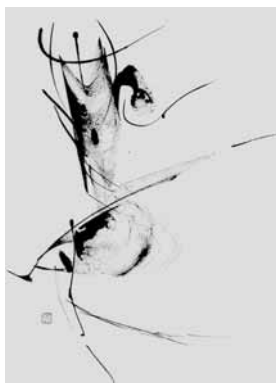
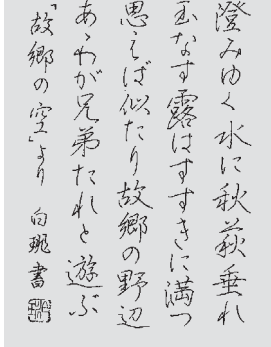
◎かな条幅部総評 誤字も少なく手本をよく理解して書かれていた。和歌と俳句の表現の差を意識してのことで格段の進歩か。(明子評)



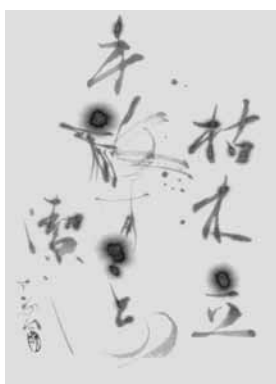
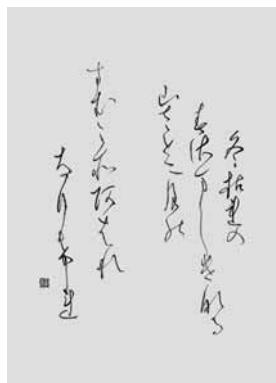
漢字条幅部 師範 豊田 翠玉
伸びやかな運筆からのスピード感が、痛快な開閉を生む。木簡録を基調とした生命感溢れる快作。

◎漢字条幅部総評 紙面の掌握が不十分なため章法が難になり、統一感に欠ける作が散見。多書して完成度の高い作を望む。(石雲評)

ペン字部 師範 藍澤 白珠
温和な雰囲気のある筆線、丁寧な運筆。構成、漢字とかなの調和が美しく、練度の高い品格溢れる作です。
◎ペン字部総評 紙面構成の工夫と用具の選択。行の流れ、余白が美しく見える作品を目差して下さい。(荊扇評)



かな部 師範 岩瀬 祥園
芯のある線で素晴らしいリズムに引き込まれました。大らかで伸びやか、もう少し掠れてもよい！
◎かな部総評 比較的良好に書いていました。上位者はなるべく料紙を用いましょう。筆の弾力を生かしてリズムを出したい。(洋子評)



前衛書部 特選 高原 梨秀
シャープな細線と渴筆がうまく調和し、余白を大きくとった構成も見事な、洗練された秀作。
◎前衛書部総評 マンネリ、パターン化を脱し、創意工夫のある作品作りを目指しましょう。(白琉評)



漢字部 師範 田村 春華
着実な書法に拠る正統派の小篆で品性高い。「添」字は唐宋以後の字。篆隸は「沾」に作る。
◎漢字部総評 上級は隸書の書法に習熟した作品が多く見られた。古典の臨書で表現力、鑑賞力を養い、創作へ展開したい。(萬城評)

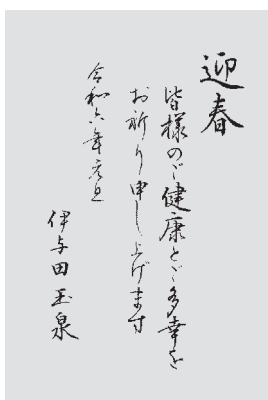
選評 平 川 峰 子

◎実用書部総評

新年の挨拶らしく清新な気を感じる作品が多く見られ好感が持てました。
漢字とかなと年号をバランス良く書くには錬度が要求されます。(峰子評)

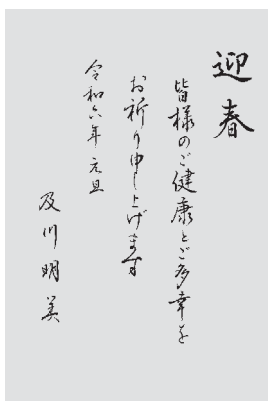
特選 伊与田 玉泉

柔らかな叙情性に富んだ賀状です。
字間・行間が響き合い風格有り。



特選 及川 明美

穏やかで風雅。柔軟な線条は整って充実し、魅力的で素晴らしい。



千葉 秀作	橋雅 伊与田玉泉	特選
江龍 堀江幸泉	及川明美	
AI 堀江幸泉	田中三代	
楓会 吉田裕	幸泉	
秀作 60書	吉田裕	
千葉 猪又理扇	猪又理扇	
大雲 奥村美楓	奥村美楓	
青蓮 小野朱星	小野朱星	
ここ 加藤翠陽	加藤翠陽	
若葉 北爪美和	北爪美和	
清月 工藤山房	工藤山房	
たか 小林嘉江	小林嘉江	
有秋 猿渡筆右	猿渡筆右	
墨縁 武田宗楓	武田宗楓	
住 60書	武田宗楓	
立精 猪股白戀	猪股白戀	
生大 葛田良子	葛田良子	
樹原 天鈴	天鈴	
誠和 久保恵美	久保恵美	
芳蘭 新行内莉子	新行内莉子	
若葉 高木佳月	高木佳月	
千葉 叙舟	叙舟	
英峰 華仙	華仙	
玉州 立精	立精	
澄春 千田玉澤	千田玉澤	
たか 榎泉雪仙	榎泉雪仙	
八街 新川翠芳	新川翠芳	
麗澤 長谷川莉音	長谷川莉音	
黎明 本郷谷恵	本郷谷恵	
もく 谷恵	谷恵	
入 選 60書	谷恵	
深大 飯高弘美	飯高弘美	
うら 五十嵐佳栄	五十嵐佳栄	
こた 池田直子	池田直子	
龜松 石井光子	石井光子	
日新 石橋嘉子	石橋嘉子	
静翠 岩上智美	岩上智美	
高真 井上郁子	井上郁子	
東総 薄田春緑	薄田春緑	
蘭 大崎鉄舟	大崎鉄舟	
中川 落合敏苑	落合敏苑	
秀苑 金城町子	金城町子	
倉吉 吉川町子	吉川町子	
文華 熊代雪華	熊代雪華	
梓江 佐々木恵理子	佐々木恵理子	
芳蘭 渡邊信溪	渡邊信溪	
やま 山口律子	山口律子	
椿翠 安嶋眞砂子	安嶋眞砂子	
蓮紅 森田藤谷	森田藤谷	
もく 八重樫裕香	八重樫裕香	
高真 松尾希子	松尾希子	
たか 本柳小室	本柳小室	
蘇我 原一雄	原一雄	
東向 西山芝香	西山芝香	
白珠 永見史重	永見史重	
森田 中野恵美子	中野恵美子	
誉田 東平絹子	東平絹子	
翠湖 田中哲子	田中哲子	
やま 多胡三千代	多胡三千代	
深大 伊呂	伊呂	
澄春 鈴木英晴	鈴木英晴	
伊呂 幸苑	幸苑	
土氣 杉田祥風	杉田祥風	

(選外437名氏名略)

前衛書部(特選)

現代詩文書部(特選)



俊 吾 厳しい主線に渴筆が響く
銀河系宇宙を彷彿させる
淡墨の滲みに心が安らぐ
優しい筆致だが情熱的
独特な構図で爽やかな線

文 庵
和 香
雅 悠
蒼 風

選評 北村 白 琉

珠 葉 運筆の呼吸一貫、形一考
筆の自在な開閉の妙味
句の情景を演出した作品
文字造形独特、線質佳し
じっくり読ませる作品

幸 泉
甘 雨
千 華
翠 径

和 香 白と墨の対比鮮明な作
横書きの文字配置妙なり
爽やかさの中に強さ有り
長鋒筆の特性生かした作
何より線の粘り強さ光る

四 峰
京 恵
幸 泉

美 紫 確かな書技による安定作
梢 炎 小刻みの運筆リズム清爽
喜代美 文字大小調和、淡墨美し
雅 悠 細線の冴えが紙面に響く
龍 仙 弾む筆勢とリズム感佳し

幸 雲 弾む筆勢とリズム感佳し
恵 泉 紙面を切り込む筆勢見事
雄 一 変化に富む線の表情好感
悦 子 大らかさと変化の妙鮮やか
真 理 弾性で繋がる文字構成

選評 大平 邑 峰

今月の

特別研究部優秀作品(特選)

選評 小竹石雲 石井明子 半田藤扇 山口仙草

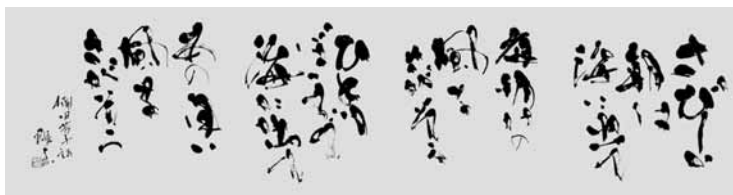
現代詩文書

原澤雄一 「風は旅人」

小品の部

◆鼓の心地よい響きを感じず。弾力ある筆致でリズムカルな歯切れのよい線は牧歌的風情を漂わせ、行尾の高低の変化が余韻を響かせて楽しい作に仕上がる。

(石雲評)



原澤雄一 書

35×135cm

臨書 (紅瑤)

原島春汀

「九成宮醴泉銘」

部分拡大

今馬如響赤赤明
五色鳥呈三趾頌
潺湲皎潔清旨醴
泉流我后夕暢雖

今馬如響赤赤明離違景福紫禁社雲氏龍官龜園鳳紀日含
五色鳥呈三趾頌不輟工華無停史上善降祥上智斯悅派謙潤下
潺湲皎潔清旨醴甘冰凝鏡漱用之日新抱之無竭道隨時泰慶興
泉流我后夕暢雖休弗休居崇茅宇樂不暇遊黃屋非貴天下為憂
人玩其華我取其寶還淳及本代文以質居高恩隆持滿戒溢念茲
在茲永保貞吉無太子幸更令勃海男臣歐陽詢奉勅書 春汀臨

原島春汀 臨

135×35cm

臨書 (洞書会)

安藤楊風

「九成宮醴泉銘」

居崇茅宇樂不暇遊黃屋
非貴天下為憂人玩 楊風臨

安藤楊風 臨

136×35cm

かな (潮音)

齋藤杏邑

「山家集より」

清風吹送香
水石流
山家集より

齋藤杏邑 書

135×35cm

◆気負いのない作品は見る側を飽きさせない。しなやかな線が描き、生み出した世界は穏やかで暖かい。この上なく豊かな日常に支えられての佳作。

(明子評)

◆点画・組み立て・大きさ等に工夫を凝らし、緊密な因果関係が成功した絶品作。楷法の極則といわれている特徴をきめ細かに表現されていてお見事。

(藤扇評)

〈小品の部〉

創作の部(44点)

漢字 7点

かな 2点

現代 1点

篆刻 1点

前衛 16点

臨書の部(36点)

漢字 32点

かな 4点

総出品点数
80点

〈特選候補者〉

〔創作の部〕

〔漢字〕

水茎 高岡 秀汀

〔現代詩〕

花香 藤井 花香

植松 梅田 紅雨

宗苑 白井 真理

四枝 大友 四峰

もく 青木 藤漣

〔前衛〕

白珠 高原 梨秀

紅瑤 松本 秀翠

蓮紅 大友 紅春

大拙 佐藤 陽子

秀水 坂井 初江

〔臨書の部〕

〔漢字〕

八街 相楽 天翔

華祥 加藤 雅芳

澄春 土屋 逸仙

小映 豊嶋 勝

己未 多田 桂彩

千葉 竹浪 叙舟

〔かな〕

菊月 新井 恵子

前衛書 (玉州) 角張芳蘭
「丘陵」



90×90cm

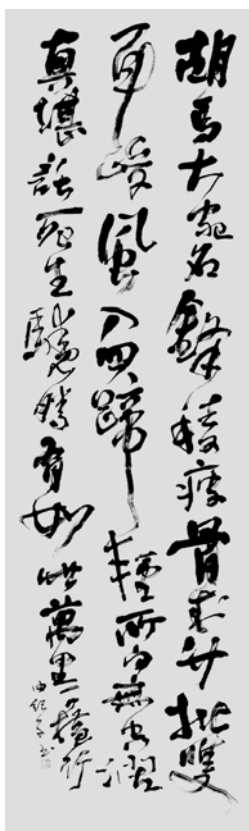
角張芳蘭書

◆質の高い渴筆作品である。鋭い切れ味のある書線でまとめられ、スケールの大きな作となった。紙面全体に活躍する縦横無尽の線が印象に残る快作。
(仙草評)

漢字

(AI)

清水由紀子 「房兵曹胡馬詩」



180×52cm

清水由紀子書

◆明清調の斬新な表現が目を引き。紙面に対し自由闊達に筆を走らせ、余白と筆勢が相まって見る側に感動を与えてくれた。(藤扇評)

現代詩文書

(大拙社) 畠中成山 「ゆきの詞」



52×226cm

畠中成山書

◆前半の清楚な動きと間の明るさが、後半になるにつれて気持ちの高揚でやや散漫さを感じさせるが、かえって充実感を覚える作。
(石雲評)

部分拡大



臨書

(伊呂) 鈴木英晴 「関戸本古今集」



53×227cm

鈴木英晴臨

◆終始乱れない臨書を眼にすることは多いが、作者の作品からは更に個性を感じさせる。その上の境地に辿り着いている？(明子評)

〈大作の部〉

総出品点数
48点

創作の部(40点)

漢字—2点

かな—9点

現代—11点

前衛—18点

臨書の部(8点)

漢字—7点

かな—1点

〈特選候補者〉

(創作の部)

「漢字」

奥田 橋本須美子

玉松 田中耶衣

奥田 小林溪姫

「かな」 杉原 桃華

「現代詩」 大雲 奥村 美楓

もく 西川 藤家

大雲 神谷 雲卿

八戸 市川 紫泉

大雲 池田 沙静

「前衛」 紅瑤 廣田 紫

容洲 阿部 邑里

趙雲 吾妻 菜々

白珠 吉田 恵弦

松風 工藤 史音

紅瑤 西條 松雲

「臨書の部」 紅瑤 川田 弘子

素雪 坂本 芳博

英峰 佐藤 桂香

紅瑤 相澤 敦子

澄春 新行 内芳蘭

漢字研究部
(九成宮醴泉銘)

選評 名 越 蒼 竹

今月のホープ作品

我取
其實

坂井初江

◎漢字研究部総評

まずはその古典に関する解説を熟読しましょう。感覚の鋭い天才は写真を見て字形や用筆。

運筆の特徴をその印象から理解することもできるでしょうが、誰にもそのような方法が当てはまるわけではありません。また半紙大の競書の場合は、字形の特徴に合わせて文字数を決めたり、上下・左右で画数が極端に違わないように臨書箇所を決めたりすることが見栄えに影響します。一部、落款の細く小さく乱雑なものが見られ残念でした。

漢字研究部 特選 坂井初江

細部まで神経の行き届いた快作。字形の正しさはもちろんのこと、特に始筆部と終筆部における鋒先の当て方・離れ方の処理が素晴らしい。「我」の字、やや上過ぎた感もあるが、総合力は抜群で他の範とするに十分。

居崇茅宇樂不
般遊黃屋非貴
天下為憂人玩
其華我取其實

居崇茅
宇樂不

居崇茅
宇樂不

居崇茅
宇樂不

居崇茅宇樂不
般遊黃屋非貴
天下為憂人玩
其華我取其實

居崇
茅宇

谷明二
惠敦美
代美
梢子

樂不
般遊

天下
為憂

我取
其實

居崇
茅宇

居崇茅宇樂不
般遊黃屋非貴
天下為憂人玩
其華我取其實

居崇
茅宇

藍谷睦
水玲月
祥翠
京花

天下
為憂

茅宇
樂不

居崇
茅宇

居崇茅
宇樂不

樂不
般遊

我取
其實

七洋雪
生華加
紅雨
梨秀

樂不
般遊

居崇
茅宇

天下為
憂人玩

樂不
般遊

居崇茅
宇樂

居崇
茅宇

典美天
千翔子
昌白柳
代柳

かな研究部
(関戸本古今集)

選評 天海矩子

今月のホープ作品

新井恵子

かな研究部 特選 新井恵子
墨量の変化がしっかり表現できている。故にネバリの線と優しく穏やかな部分でまとまりが良い。平素より熱心に臨書されている結果です。
◎かな研究部総評
関戸本古今集の多面的な用筆、線質を理解して習得できるよう臨書しましょう。課題の中央「し」がうまく書けていると全体が引き締まります。

かな研究部成績表

澄橋森一松玉紅 春雅地心村松瑤	秀	水千一た静八上光上清上青幕紅清う蓮桜大書光書墨上菊 茎葉心か翠峯泉景月湖張風月紅草雲彩緑泉	特選	菊上早新 書墨早新 光書早新 大書早新 蓮草早新 紅草早新 清月早新 風月早新 張風早新 幕張早新 青湖早新 上泉早新 清景早新 上泉早新 光景早新 上泉早新 静景早新 八景早新 上泉早新 一景早新 千景早新 水景早新
岩伊池秋青藍 瀬田葉木木澤	作	清松小猿井井柏櫻叶小本北高岩境飯本苗七三淡川永武早 水重坂渡上ノ谷田野林多嶋橋佳代和幹美佳美相 蘭翠素筆智春和龍洋嘉和青賢子生雪書相	特選	菊上早新 書墨早新 光書早新 大書早新 蓮草早新 紅草早新 清月早新 風月早新 張風早新 幕張早新 青湖早新 上泉早新 清景早新 上泉早新 光景早新 上泉早新 静景早新 八景早新 上泉早新 一景早新 千景早新 水景早新
園玉幸ミ玉葵白 園子子子子子	作	蘭翠素筆智春和龍洋嘉和青賢子生雪書相	特選	菊上早新 書墨早新 光書早新 大書早新 蓮草早新 紅草早新 清月早新 風月早新 張風早新 幕張早新 青湖早新 上泉早新 清景早新 上泉早新 光景早新 上泉早新 静景早新 八景早新 上泉早新 一景早新 千景早新 水景早新
澄橋森一松玉紅 春雅地心村松瑤	秀	水千一た静八上光上清上青幕紅清う蓮桜大書光書墨上菊 茎葉心か翠峯泉景月湖張風月紅草雲彩緑泉	特選	菊上早新 書墨早新 光書早新 大書早新 蓮草早新 紅草早新 清月早新 風月早新 張風早新 幕張早新 青湖早新 上泉早新 清景早新 上泉早新 光景早新 上泉早新 静景早新 八景早新 上泉早新 一景早新 千景早新 水景早新
岩伊池秋青藍 瀬田葉木木澤	作	清松小猿井井柏櫻叶小本北高岩境飯本苗七三淡川永武早 水重坂渡上ノ谷田野林多嶋橋佳代和幹美佳美相 蘭翠素筆智春和龍洋嘉和青賢子生雪書相	特選	菊上早新 書墨早新 光書早新 大書早新 蓮草早新 紅草早新 清月早新 風月早新 張風早新 幕張早新 青湖早新 上泉早新 清景早新 上泉早新 光景早新 上泉早新 静景早新 八景早新 上泉早新 一景早新 千景早新 水景早新
園玉幸ミ玉葵白 園子子子子子	作	蘭翠素筆智春和龍洋嘉和青賢子生雪書相	特選	菊上早新 書墨早新 光書早新 大書早新 蓮草早新 紅草早新 清月早新 風月早新 張風早新 幕張早新 青湖早新 上泉早新 清景早新 上泉早新 光景早新 上泉早新 静景早新 八景早新 上泉早新 一景早新 千景早新 水景早新

〔特別昇段級試験臨書課題〕

※下記の写真掲載部分の中から規定の文字数を
臨書する。掲載以外は違反となります。

孔子廟堂碑（楷書）

漢字部

第一種

半紙に写真掲載の中から4文字を臨書

△95%縮小▽



臨咫尺。吮爾微咲。若／聽武城之絃。怡然動

蘇慈墓誌銘（楷書）

漢字部

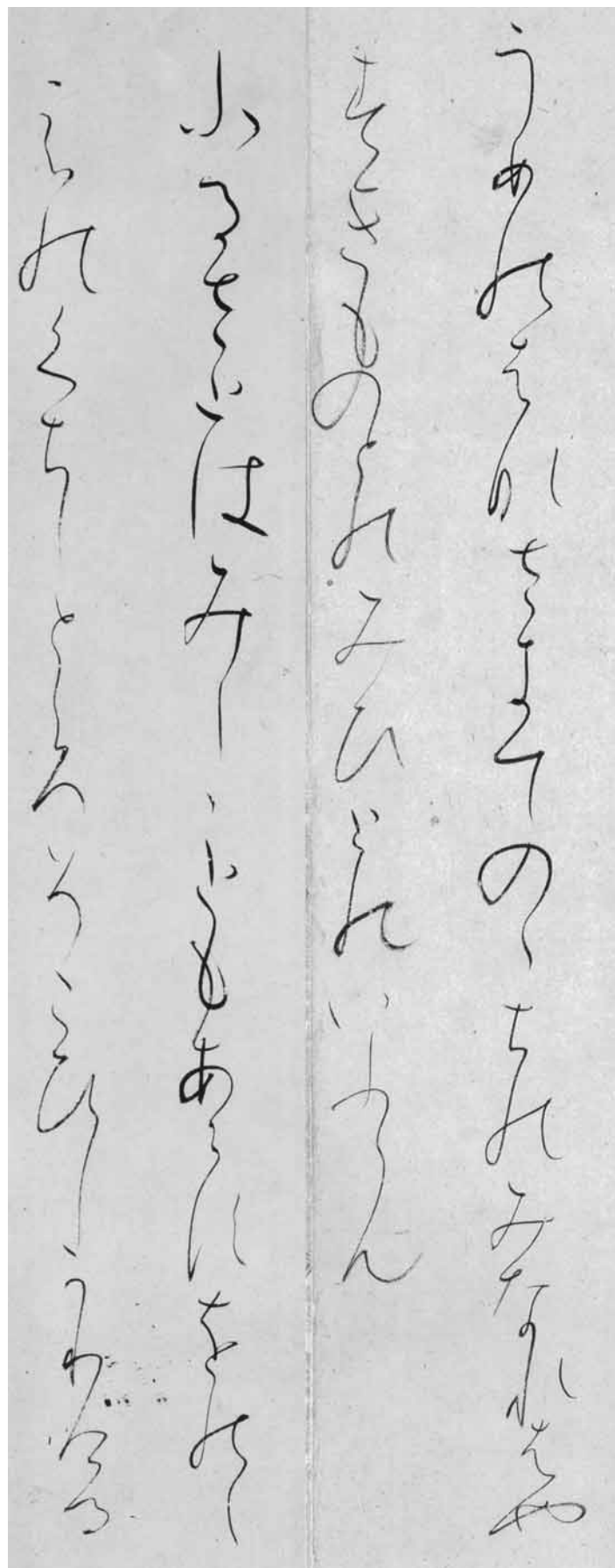
第二種

半紙に写真掲載の中から4文字を臨書

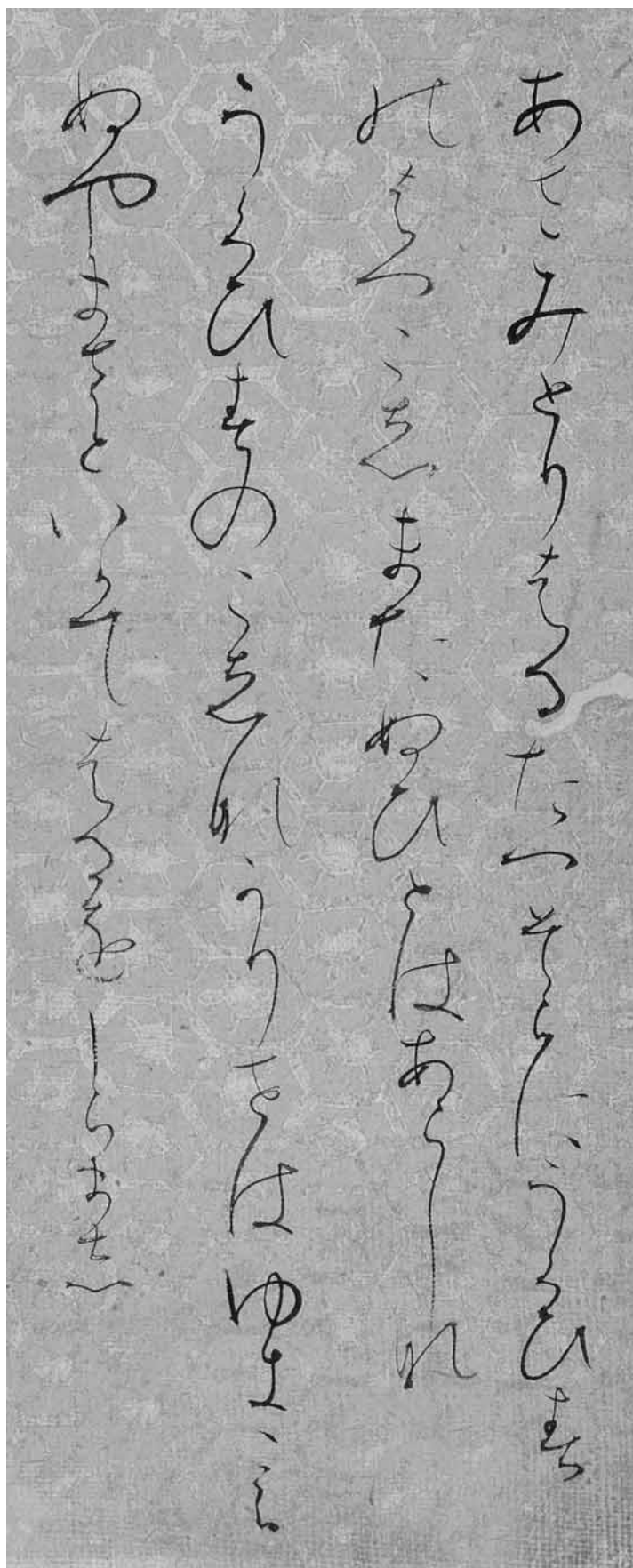
△95%縮小▽



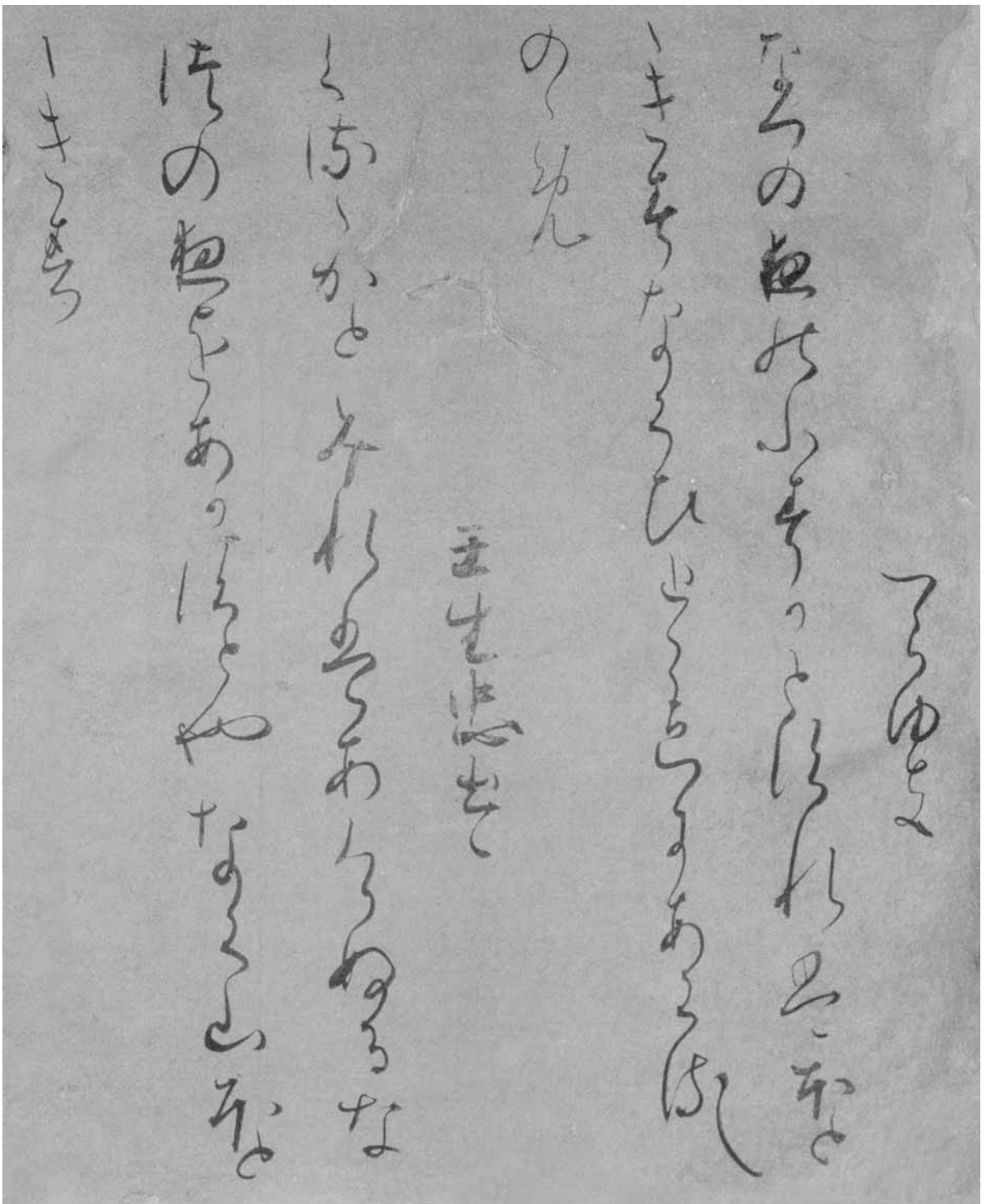
漢。車騎之將。名馳朔漠。／其年。改領左侍伯禁兵。／五年。周武帝。治兵關隴。



うめのはな^{能者}さきて^{支那}のゝち^能のみな^能れば^者や
すき^春もの^能との^能み^能ひと^能の^能い^能ふ^能ら^能む^无
ふる^能さは^能み^能し^能ごと^能も^能あら^能ず^能を^能の^能ゝ
え^能の^能く^能ち^能し^能と^能ころ^能ぞ^能こ^能ひ^能し^能か^能り^能け^能る^能



あさみどりはる^者たつそらにうぐ^久ひす^春
能^者のはつこゑまたぬひとはあら^那じな^那
うぐ^久ひす^春のこゑな^那かり^可せ^世ばゆき^支え^支
ぬやまざとい^可か^者では^者るを^志し^志らまし



<原寸大>

つらゆき^支／

なつの夜のふす^能／

か^可とす^須れば^盤ほと^本／

ゝぎ^春す^久なくひと

こゑ^尔にあ^久くるし^流／

のゝめ^免／

壬生忠岑^{みぶのただみね}／

く^久る^流ゝか^久とみ^流れ

ば^盤あ^介けぬ^介る^介な^介／

つ^徒の^徒夜^徒をあ^可か^須ず^須

と^久や^本なく^本山^本ほと^本／

ゝぎ^春す^春

（骨書き）

つらゆき

△原寸大△

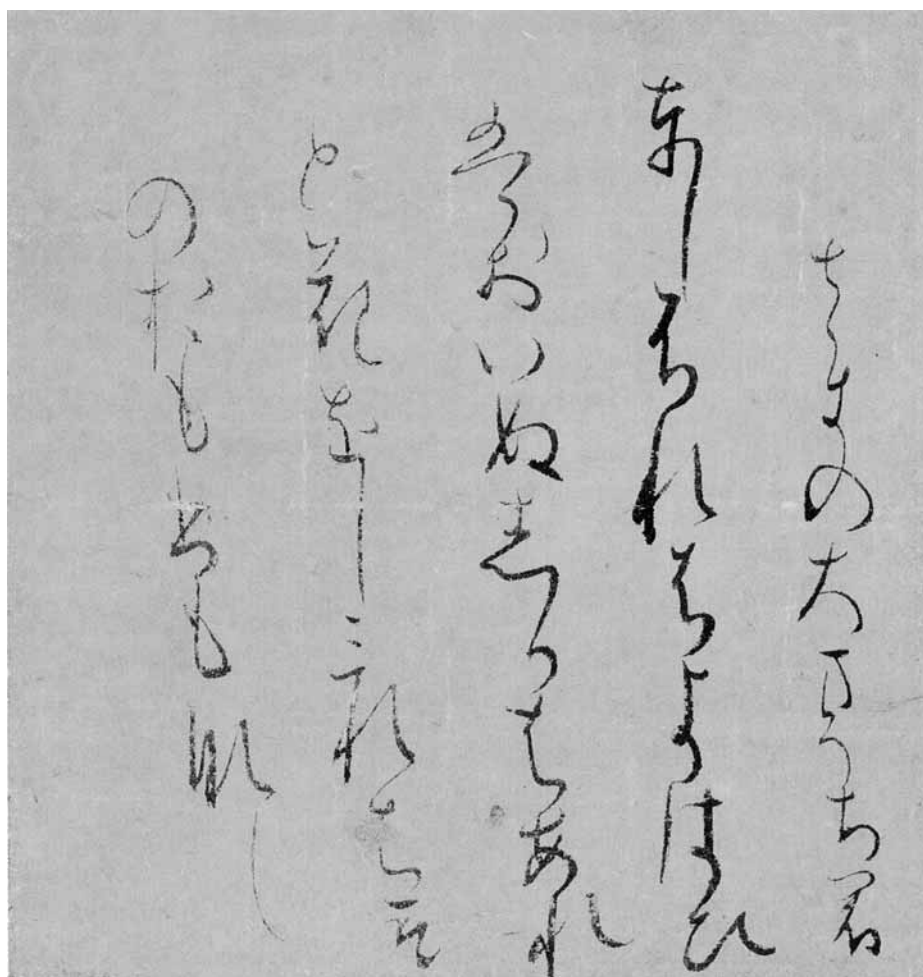
・料紙可

・たて12.9センチ×よこ12.2センチ原寸大の枠を半紙にとり、その中に書くこと。

・落款は枠外に書く。○○臨

印のみも可(枠外に押印)

・料紙を裁断して貼付してもよい。



さきの^支大^万まうち君

としふ^東ねば^不よはひ

はおいぬ^志しかは^可あれ

ど花をし^三み^者れ^毛ばも

のおも^於ひも^悲なし^那

(骨書き)

さきの

名前のかき方

◎どの部も落款を入れる。

・創作は○○書と書く。

(かな部・かな条幅部は印のみも可)

・臨書は○○臨と書く。

(かな部・かな条幅部は印のみも可)

ご注意!!

皇甫誕碑 (楷書)

漢字条幅部

第二種

半切に写真掲載の中から14文字を臨書

△90%縮小▽



策名蕃牧。則位重／首寮。袞服睢陽。則／譽光上客。既而蒼／精委馭。炎運啓圖。

〈ご注意〉 臨書作品は45～52ページの写真掲載の古典・古筆の中から、指定文字数を臨書して下さい。

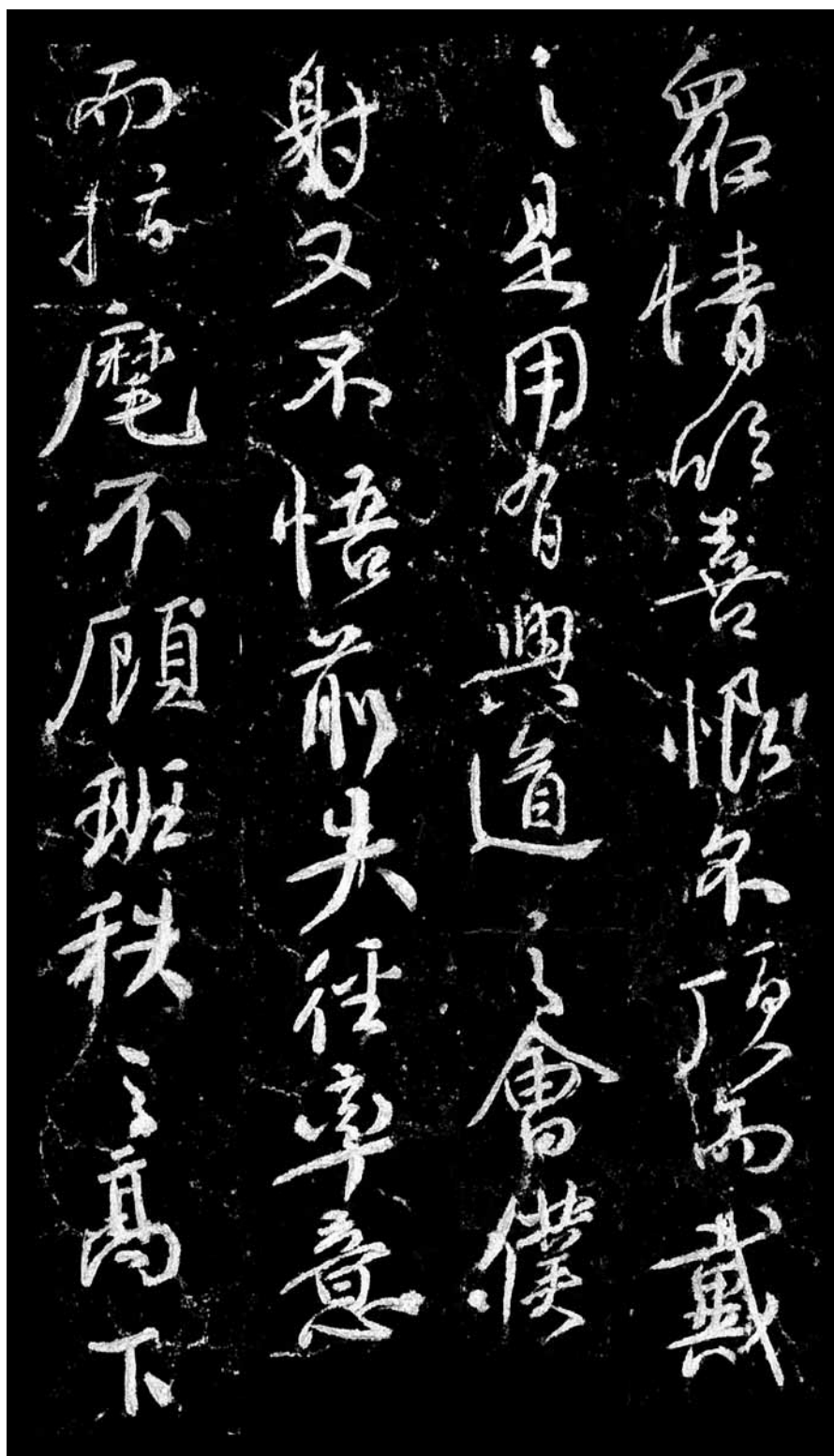
争座位文稿 (行書)

漢字条幅部

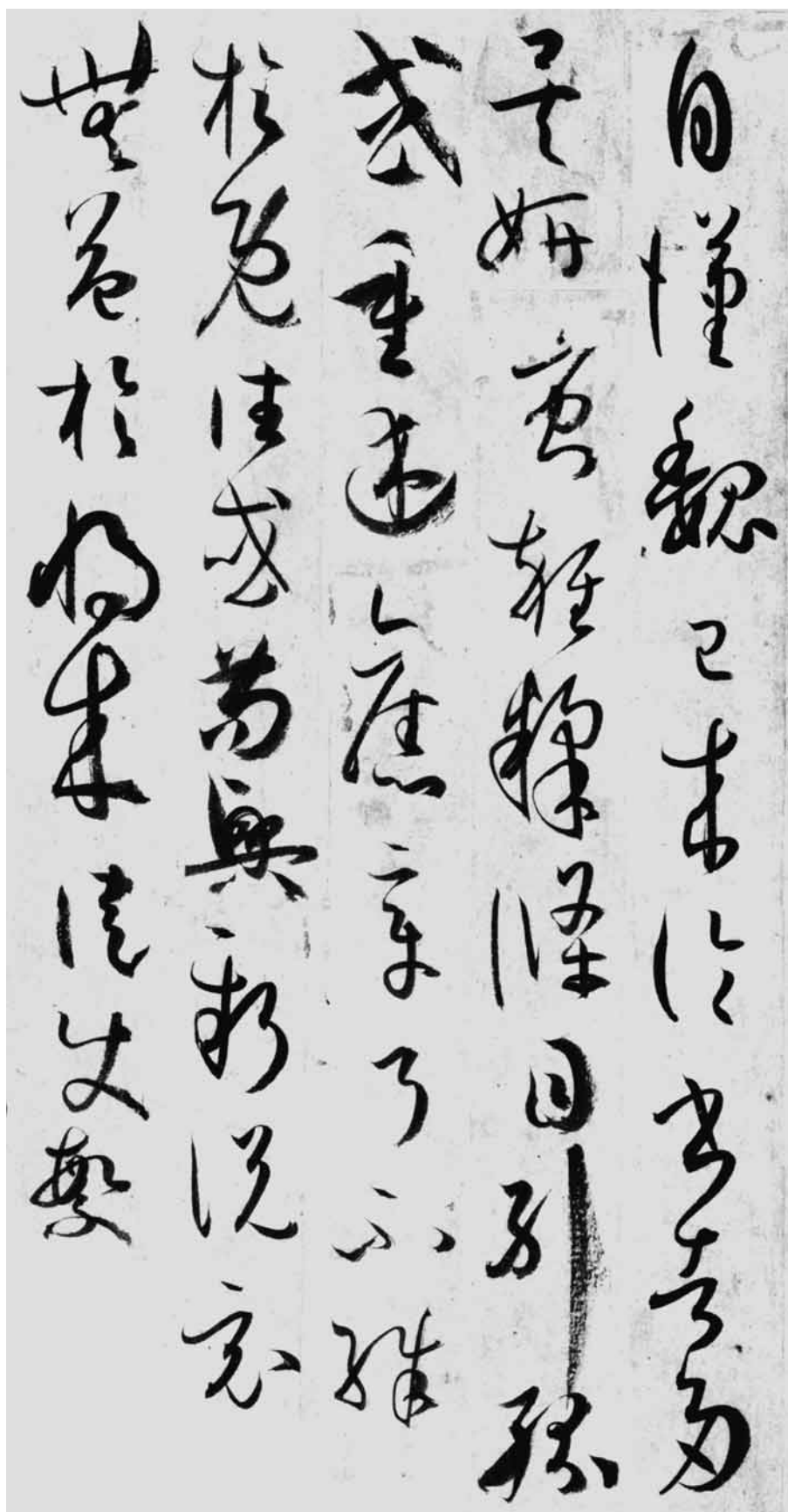
第三種

半切に写真掲載の中から20文字を臨書

△原寸大▽



衆情欣喜。恨不頂而戴／之。是用有興道之會。僕／射又不悟前失。徑率意／而指麾。不顧班秩之高下。



自漢魏已來。論書者多／矣。妍蚩雜糅。條目糾紛。／或重述舊章。
了不殊／於既往。或苟興新說。竟／無益於將來。徒使繁

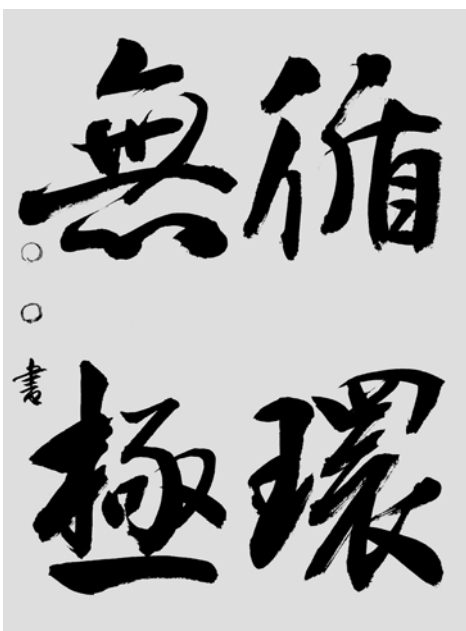
(骨書き・「蚩」)

蚩

〔2024春季特別昇段級試験参考手本〕

循環無極 (循環して極まり無し)

(龔自珍)



漢字部

第二種

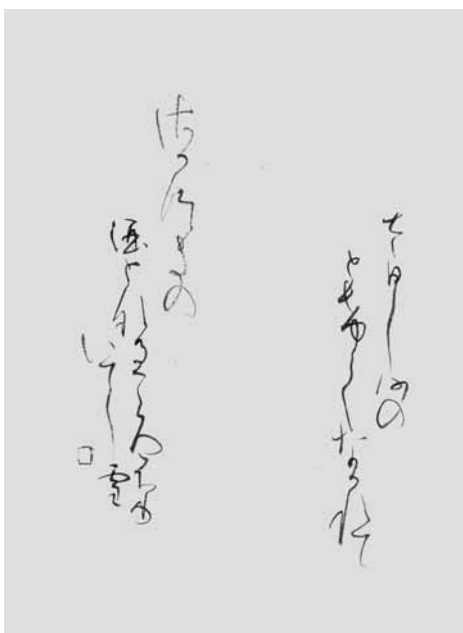
◇創作・行書

◇春の特別昇段級試験の課題手本（創作作品）を掲載しました。参考にしてください。
(編集部)

※ペン字は3月号に掲載しますのでお待ち下さい。

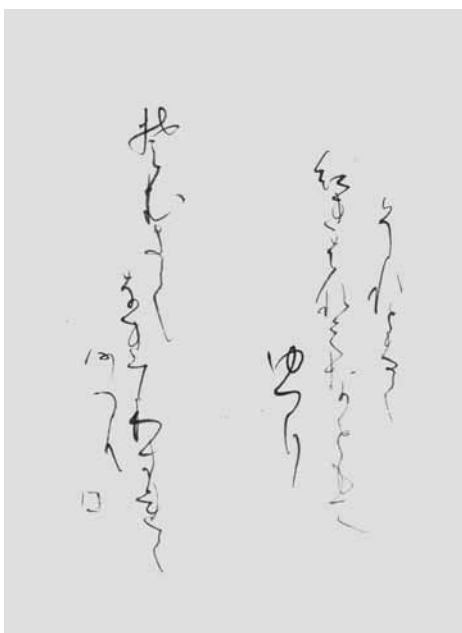
第三種 ◇創作（和歌）

さびしさのとけてながれてさかづきの酒となるころふりいでし雪 (若山牧水)
よみ方 さびしさのとけてながれてさかづきの酒となるころふりいでし雪



第二種 ◇創作（和歌）

それとなく紅き花みな友にゆづりそむきて泣きて忘れ草つむ (山川登美子)
よみ方 それとなく紅き花みな友にゆづりそむきて泣きて忘れ草つむ



かな部

漢字条幅部

第一種 ◇創作（楷書または行書）

萬里奉王事

萬里奉王事（万里王事を奉ず）
（字參）

〈楷書〉

萬里奉王事

萬里奉王事（万里王事を奉ず）
（字參）

〈行書〉

第二種 ◇創作・行書

山河風景元無異
城郭人民半已非
新入民半已非

山河風景元無異 城郭人民半已非
（山河風景元異なる無し 城郭人民半は已に非なり）
（文天祥）

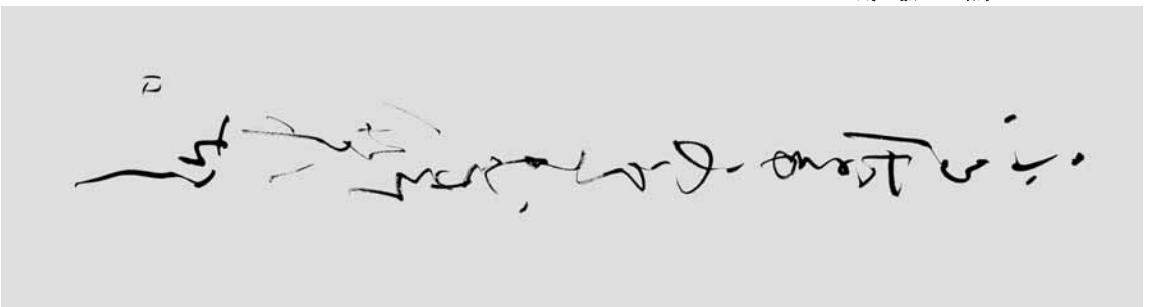
第三種 ◇創作・楷書

滿地蘆花和我老
猶家燕子傍誰飛

滿地蘆花和我老 猶家燕子傍誰飛
（滿地の蘆花我と和に老い 旧家の燕子誰に傍うてか飛ぶ）
（文天祥）

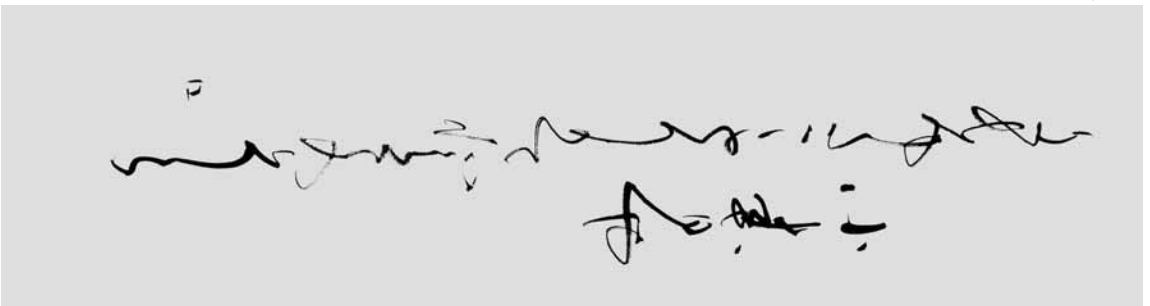
かな 条幅部

第一種 ◇創作(俳句)



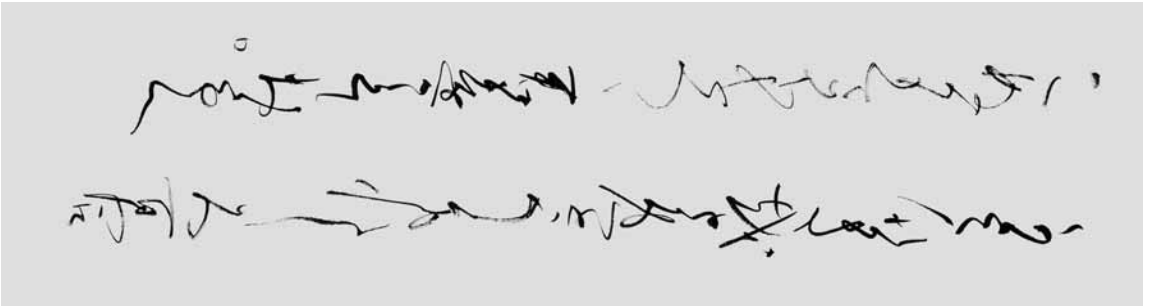
(中村健二)

第二種 ◇創作(俳句)



(幸田寅彦)

第二種 ◇創作(短歌)



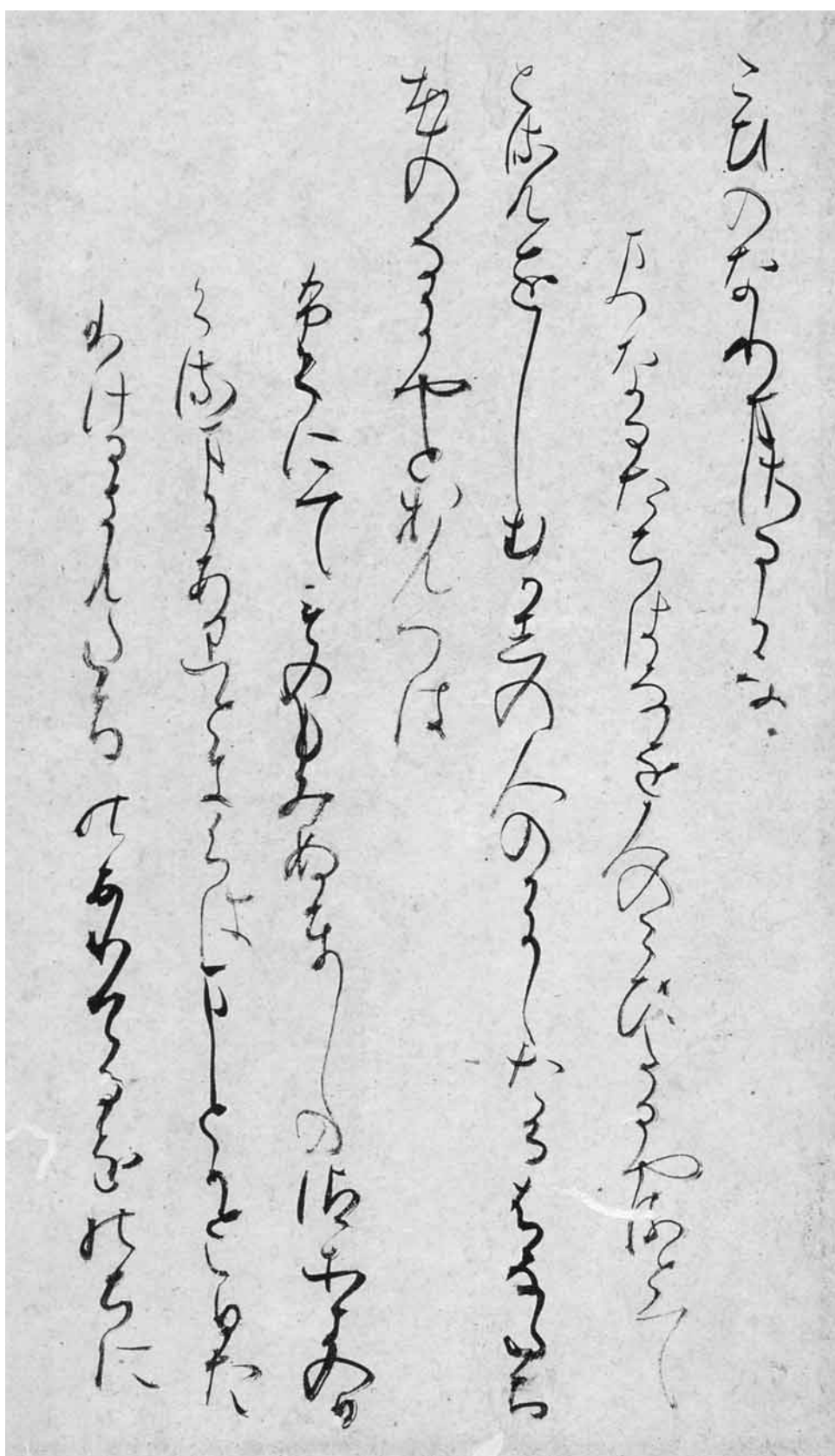
(山田登義子)

※臨書作品は、45～52ページの写真掲載の古典・古筆の中から、指定文字数を臨書して下さい。

※作品締め切りは4月15日(月)です。

(編集部)

☆P11の「和泉式部続集切（伝藤原行成筆）」の課題を少し拡大（110％）して示しました。ご活用下さい。



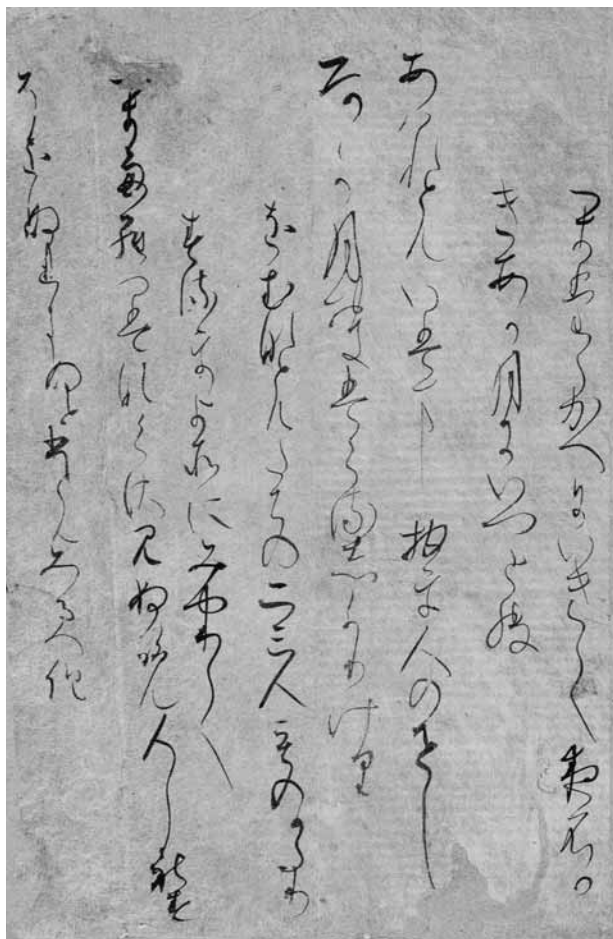
※4か所の虫損（虫食い）に注意。1行目末の「奈」は左隣りの字をもとにして考えて下さい。

古筆鑑賞

240

和泉式部続集切 (伝 藤原行成筆) ③

ふじわらのゆきなり



(掲載図版・60%に縮小)

〈よみ〉
かたゝがへにいきて夜ふか／きあか月にいづとて／あはれともいはまし物を人のせし／あか月おきはくるしかりけり／をむなともだちの二三人ものがたり／するをよそにみやりて／かたらへばなぐさ見ぬ覧人しれず／そをぬれぎぬとひとみるべく

古典鑑賞

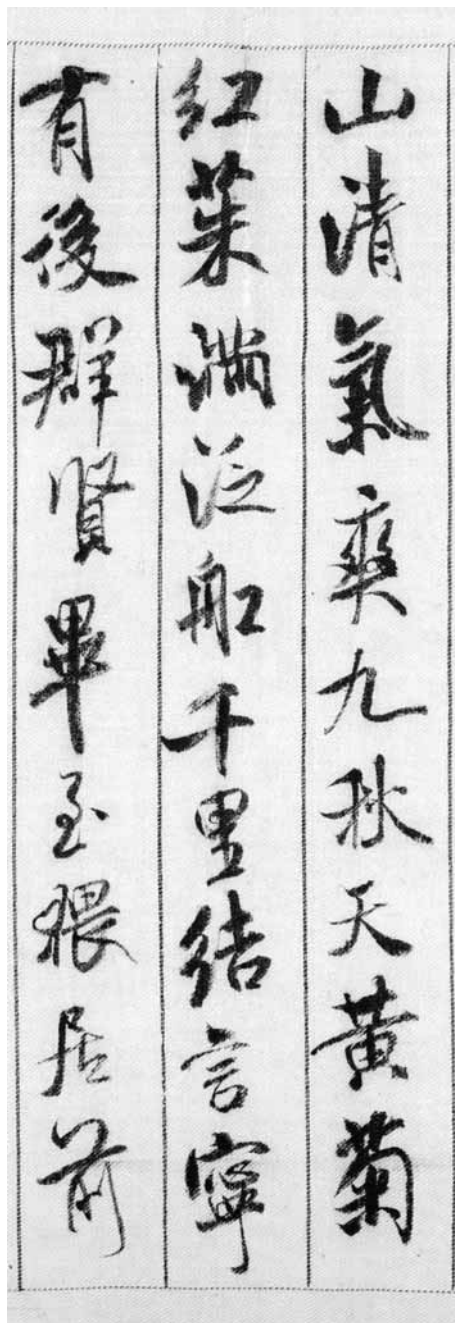
466

蜀素帖 (宋・米芾) ③

しよくそじょう

べいふつ

山清氣爽九秋天。黃菊紅葉滿泛船。千里結言寧有後。群賢畢至猿居前。



(台北故宮博物院蔵)

(掲載図版・70%に縮小)

篆刻

【3月15日締めきり】

《出品規定》

- ① 摹刻 (ア) 課題による語句
(イ) 原印自由
(出品の際、原印のコピー添付)
- ② 創作 語句自由

- 印面の大きさは2.3cm(八分角)以内とし朱文、白文自由。
- 印箋は市販のもの、半紙横1/2の大きさに切ったものも可。
- 応募は①か②のどちらかとする。

2月号 篆刻課題

〈原印コピー〉

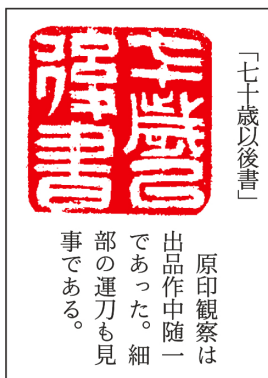


◎出品方法

用紙の右側に押印し、左側に印影の釈文を明記、並びに落款(氏号)を入れる。

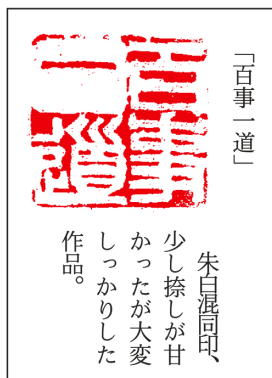
752号篆刻優秀作品

篆刻特選 鷺山美梢



原印観察は
出品作中随一
であった。細
部の運刀も見
事である。

創作特選 加藤万丈



朱白混同印、
少し捺しが甘
かったが大変
しっかりした
作品。

◎篆刻部総評

篆刻、創作ともに、真摯な作品が多くあった。初心の方も、ベテランの方も取り組み方が素晴らしく、好印象な作品が多かったように思えた。
(大峰評)

選評 後藤大峰

(篆刻) (創作)

特選	特選
大雲 鷺山美梢	新栄 加藤 万丈
秀作 (50音應)	秀作 (50音應)
大雲 小沢 華仙	やま 内田 路愛
芳琴 小野寺幸喜	生大 中島 義則
蒼原 庄司 櫻空	粹仙 藤井 龍仙
佳作 (50音應)	佳作 (50音應)
大綱 片岡 豪峰	唯一 逢沢 唯一
石心 成田 能喜	石心 篠田 華所
白琉 平塚 由香	香書 須賀澤 一起
入選 (50音應)	水荃 高岡 秀汀
生大 吉原 進	入選 (50音應)
(選外1名氏名略)	
遊雲 赤星 文庵	遊雲 荒川 裕泉
游水 坂本 寛山	慈空 吉田 恵弦

今月の注目作

中島義則



◎郵便物・清書・送金・一般事務等は

101-0031 東京都千代田区
東神田1-16-7
東神田プラザビル3階

公益財団法人 書道芸術院

電話 (03) 3862-1954
FAX (03) 3862-1957

ご連絡等は
月曜日～金曜日 10時～16時の間に
お願いいたします。(土・日・祝日は休み)

送料

1 か月の購読部数が	
1部～9部までの1回の郵送料	
1部	79円
2部	95円
3部	103円
4部	119円
5部	135円
6部	151円
7部	167円
8部	183円
9部	199円
10部以上は	送料免除

令和六年 一月二十五日印刷
令和六年 二月 一日発行

定価 1部 七五〇円

編集兼 発行人 下谷洋子

データ処理 株式会社 リンクス

印刷 小沢写真印刷株式会社

発行所 公益財団法人 書道芸術院

〒101-0031 東京都千代田区東神田1-16-7
東神田プラザビル3階

電話 (03) 3862-1195
FAX (03) 3862-1195
振替 00150141135058
http://www.lincs.co.jp/shogi/

昭和五十年一月二十七日第三種郵便物認可
令和六年 一月二十五日 印刷
令和六年 二月 一日 発行

(毎月一回一日発行) 書道芸術 第七五四号